

## 医学部カリキュラムについて

東北医科薬科大学医学部のカリキュラムは、本学の教育理念を基本に、本学医学部の使命を達成すべく、教育課程の編成・実施方針 [カリキュラム・ポリシー] に則って、養成する人物像を明確にした6年制の一貫教育として組まれている。具体的には、本学医学部学生が卒業時に修得しておくべき学修成果 [アウトカム] とそれを達成するために身につけるべき能力 [コンピテンシー] を明確にし、卒業までにその能力が段階的に獲得されるように、様々な科目群を関連付けながら教授していく学修成果基盤型教育 [outcome-based education: OBE] である。

### 教育課程の編成・実施方針 [カリキュラム・ポリシー]

本学医学部の使命を果たすために、地域の医療ニーズを理解し、多職種および行政と連携しながら医療を提供することにより、地域住民の保健・福祉の向上に貢献できる幅広い臨床能力を有する医師の養成を可能にする教育課程を、医学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠しつつ本学独自のカリキュラムを加えて、編成・実施する。

1. 心豊かな人間性を備え、生命の尊厳について深い理解を持つ医師を育むために、人文科学から臨床医学へ連続性ある倫理教育を実施する。
2. 病める人を生活者として全人的に捉える広い視野を育むために、講義と地域での体験学習を効果的に連動させる。
3. 地域医療に対する理解を深め使命感を醸成するために、同じ地域を繰り返し訪問し、多職種の医療人および地域の住民や行政と連携しながら学ぶ、地域滞在型教育を行う。
4. 総合診療医を目指すために、地域医療の理解から総合診療力の養成へと段階的に学習する実践的な教育課程とする。
5. 救急・災害医療（放射線災害を含む）に対応できる医師を養成するために、特色ある体験学習や演習科目を編成する。
6. 問題発見能力、問題解決能力、自己研鑽能力を育むために、問題基盤型学習や双方向教育、グループ討論・発表などの主体的・能動的学習を取り入れる。
7. 効果的な修得のために、関連科目間の横断的および縦断的統合を図った教育課程とする。
8. アウトカム基盤型教育と適切な学習評価を実施する。
9. 多様な参加型臨床実習など医学教育の国際化に対応した教育を実施する。

### 卒業時に修得しておくべき学修成果 [アウトカム]

1. 高い倫理観と責任感を持ち、多職種連携のもと、患者中心の医療を実践できる。
2. 幅広い医学的知識・技能を持ち、生涯にわたり自己研鑽できる。
3. へき地・被災地の特色を踏まえた包括的な医療を実践でき、地域社会の発展に貢献することができる。

本学学生が生涯にわたって身につける資質・能力  
[コンピテンシー]

### PR：プロフェッショナリズム (Professionalism)

人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し、多様性・人間性を尊重し、利他的な態度で診療にあたりながら、医師としての道を究めていく。

### GE：総合的に患者・生活者をみる姿勢 (Generalism)

患者の抱える問題を臓器横断的に捉えた上で、心理社会的背景も踏まえ、ニーズに応じて柔軟に自身の専門領域にとどまらずに診療を行い、個人と社会の良質な福祉に貢献する。

### LL：生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (Lifelong Learning)

安全で質の高い医療を実践するために絶えず省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、生涯にわたって自律的に学び続け、積極的に教育に携わっていく。

### RE：科学的探究 (Research)

医学・医療の発展のための医学研究の重要性を理解し、科学的思考を身に付けながら、学術・研究活動に関わり貢献する。

### PS：専門知識に基づいた問題解決能力 (Problem Solving)

医学及び関連する学問分野の知識を身に付け、根拠に基づいた医療を基盤に、経験も踏まえながら、患者の抱える問題を解決する。

### IT：情報・科学技術を活かす能力 (Information Technology)

発展し続ける情報化社会を理解し、人工知能等の情報・科学技術を活用しながら、医学研究・医療を実践する。

### CS：患者ケアのための診療技能 (Clinical Skills)

患者の苦痛や不安感に配慮し、確実で信頼される診療技能を磨き、患者中心の診療を実践する。

### CM：コミュニケーション能力 (Communication)

患者及び患者に関わる人たちと、相手の状況を考慮した上で良好な関係性を築き、患者の意思決定を支援して、安全で質の高い医療を実践する。

### IP：多職種連携能力 (Interprofessional Collaboration)

医療・保健・福祉・介護など患者・家族に関わる全ての人々の役割を理解し、お互いに良好な関係を築きながら、患者・家族・地域の課題を共有し、関わる人々と協働することができる。

### SO：社会における医療の役割の理解 (Medicine in Society)

医療は社会の一部であるという認識を持ち、経済的な観点・地域性の視点・国際的な視野なども持ちながら、公正な医療を提供し、健康の代弁者として公衆衛生の向上に努める。

## 科目群

- 基礎教養：人文科学系科目により、医療人である前に、一社会人・一職業人としての教養・素養（リベラル・アーツ）を修得する。また、患者を一生活者として捉える視点の育成につなげるために、個人の価値観、人生観の多様性を尊重する心を育む。社会科学系科目により、医療もあくまで社会制度の一部であることを前提として、社会全般の理解を深める。
- 準備教育：『基礎医学』の学習に当たり、基本的な知識や技能を整理・習得する。
- 行動科学：『基礎教養』で学んだ「人」や「社会」の理解をもとに、患者および家族の生活者としての多様性を全人的に理解する姿勢を養う。
- 社会医学：『基礎教養』で学んだ「人」や「社会」の理解をもとに、患者や住民を集団として捉えて、医学の社会的役割や制度を学習する。
- 基礎医学：『準備教育』の知識をもとに、『臨床医学』の学習の基礎となる自然科学的知識を学習する。
- 臨床医学：『基礎医学』の知識をもとに、様々な病態、診断、治療について学ぶ。
- 前臨床実習：診療技能や臨床推論について学ぶ。
- 臨床実習：『基本事項』、『社会医学』、『臨床医学』および『臨床実習前教育』で学んだ知識・技能・態度を活用して、医療の実際を学ぶ。
- 統括講義：6年間の学習内容の総括。

これらの科目群の段階的な関連性を「カリキュラムツリー」として示す。

## 達成レベル

コンピテンシーの修得は、関連する科目（「カリキュラムツリー」を参照）を段階的に学ぶことにより達成される。例えば、PR：プロフェッショナルリズム（Professionalism）は、『基礎教養』の「社会学」（1年次前期）、『行動科学』の「医学概論【行動科学1】」（1年次前期）、『社会医学』の「地域介護サービス体験学習」（2年次後期）、『臨床実習』の「診療科臨床実習」・「総合診療学演習」・「地域・総括医療実習Ⅰ・Ⅱ」（5年次後期～6年次前期）などの科目を学年進行順に学んでいくことにより卒業時までには修得する。この際、科目毎に、コンピテンシー修得の「達成レベル」（表1）を設定し、学習の進行により修得度が向上する仕組みとなっている。

一方、ひとつの科目が、いくつかのコンピテンシーの修得に関わることもある。例えば、『社会医学』の「早期臨床医学体験学習」（1年次後期）は、CS：患者ケアのための診療技能（Clinical Skills）およびCM：コミュニケーション能力（Communication）、IP：多職種連携能力（Interprofessional Collaboration）などに、『社会医学』の

「地域病院体験学習」（2年次前期）は、GE：総合的に患者・生活者を見る姿勢（Generalism）およびIP：多職種連携能力（Interprofessional Collaboration）、SO：社会における医療の役割の理解（Medicine in Society）などの修得に関わる。各科目のシラバスには、その科目の学習により修得を目指す達成レベルがすべてのコンピテンシーについて記載されている。

例えば「早期臨床医学体験学習」では、PR-01-01、LL-02-01-01、IP-02-04-01など。

このように1年次から6年次へと進級するに連れて、コンピテンシーのレベルがFからAへと上がっていく。そして、卒業前の最終科目である臨床実習の習得により、8つのコンピテンシーの全てが最終目標であるレベルAに到達するカリキュラムとなっている。

## 各科目の教育目標と成績評価

各科目には、「ねらい」とそれを達成するための具体的な「学修目標」が設定されている。我が国の医学教育が目指す普遍的な医師像に求められる『医師として求められる基本的な資質』とその資質を養成するためのコアとなる教育内容（知識・技能・態度）は「医学教育モデル・コア・カリキュラム」（巻末に記載）として整理されている。各科目の「ねらい」と「学修目標」は、コンピテンシー修得のために設定されており、従って、「医学教育コア・カリキュラム」のS学修目標に加え、本学独自の目標を追加している科目も存在する。

各科目の成績は、当該科目の「科目達成レベル」を基準にして、当該科目の学修目標の達成度により評価する。

## シラバス

各科目のシラバスは、上に述べた本学医学部カリキュラムの特徴を踏まえて作成されている。従って、シラバスを熟読し、アウトカムの修得に向けた個々の科目の位置づけおよび科目間の関連性を十分に理解することは、効果的な学習に欠かせないものである。日々の学習による小さな成長が相加的・相乗的に積み重なって、必要とされる能力が形成されていくことを十分に認識して、6年間に有意義に過ごしてもらいたい。

## 学習の進め方

将来、社会に貢献し、己の使命を果たすためには、医師の資格は必須である。医師の資格を取得するためには、当然のことながら卒業し、医師国家試験に合格しなければならない。医師国家試験で問われる内容（次頁）を含め、地域社会の中で医師として貢献するために必要な資質を、上に述べたように、学年を追って順次修得できるように組まれている。従って、学生諸君の日々の学習とは、授業当日の復習により理解を確認しておくこと、またその理解においてこれまでに

学習した関連科目（シラバスに記載あり）の内容を関連付けることに尽きるのである。

このような学習のために、授業内容のデータを収録した「授業資料共有フォルダ」（学生便覧参照）を科目毎に設置してあるので、予習、復習に活用すること。

最後に、本学医学部の教育は、大学の教職員だけで成り立っているわけではないことを肝に銘じて欲しい。学外の医療機関や各種職能団体、行政関係者、そして患者さんやその家族の方々のご理解とご協力、さらに一般社会からのご支援があって、学生諸君は医師を目指すことができるのである。このことを常に意識して、本学医学部生としての責務を果たして欲しい。